令和８年３月１１日
記録：井上　里美

令和７年度学校関係者評価委員会　報告書

令和８年３月１１日に、学校関係者評価委員会を本校理事長室で実施しました。
その結果を下記のとおりご報告いたします。

記

１．会議概要

・開催日時：令和８年３月１１日（水）１５：００～１６：１５
・開催場所：日本総合ビジネス専門学校　理事長室
・委員
出席者：松尾祥子（株式会社ソフィア総合研究所　キャリアコンサルタント）
服部直子（大垣市医師会看護専門学校　専任教員）
氏原栄子（医療法人守田クリニック　事務長補佐）
高橋綾乃（株式会社偕拓堂ギャラリー「美術の森」
イラスト教室講師　卒業生）
校長　小川義隆（委員長）
講師　北村伸司、山口祐生、山北麗子
欠席者：吉田茂樹（情報科学芸術大学院大学　教授）
・オブザーバー
理事長　臼井功、理事　高橋伊三男
・書　記
事務主任　井上里美

２．学校関係者評価委員会議題

①開会
②校長挨拶
③自己紹介
④教育理念・令和７年度教育方針の確認
⑤自己点検・評価結果の説明と確認
⑥委員による評価および意見交換
⑦閉会

３．審議内容

議題④令和７年度　学校理念・経営方針・教育方針について

【学校理念】

中庸を旨とし、勤労を尊び、職業人としての総合能力を有する
人間性豊かな人材の養成

【経営方針】

１．経営基盤の維持強化
建学の精神を具現化して、安定した経営と教育の充実をはかる

２．地域社会に貢献できる徹底した専門教育の展開
専門教育を一層推進し、地域社会に貢献できる人材を養成する
教職員が実りのある教育を実践する

３．時代の流れを読み、社会のニーズにこたえる人材づくりの推進
時代の変化に即応した専門教育を推進するとともに、果敢に資格試験にチャレンジし、即戦力となる人材を養成する

【教育方針】

（１）国家試験や各種資格取得により、社会人に有用なスキルの醸成
（２）ＡＩ時代に必要とされる人材養成
（３）主体性のある即戦力としての人材教育

議題⑤自己点検・評価結果の説明と確認

「項目別分析のまとめ」

（１）教育理念、目標、人材育成
・点数：項目 1,2,4,5＝評価 4 ／ 項目 3（将来構想）＝評価 3
・分析：理念や教育方針は学生要覧や新入生オリエンテーションを通じて周知されており、職業教育の特色化が図られている。今後は教育課程編成委員会や外部講師との連携強化、および少人数による実践教育の充実を進めていく。

（２）学校運営
・点数：項目 1,2,3,4,5,7,8＝評価 4 ／ 項目 6（コンプライアンス）＝評価 3
・分析：経営会議が毎月機能し、組織的な意思決定と事業推進が適切に行われている。今後は Web サイトの一新による情報公開の向上、校内情報システムの活用促進による情報共有、およびコンプライアンス体制のさらなる強化を図る。

（３）教育活動
・点数：項目 1～4,6～10＝評価 4 ／ 項目 5,11,12,13＝評価 3
・分析：教育課程編成委員会や検定対策での講師間連携を通じて、業界ニーズに対応した体系的・実践的なカリキュラム編成が実施できている。今後は学生による授業評価の改善推進に加え、各種研修への積極参加や打ち合わせの強化を通じ、教職員の指導力・資質の向上を進める。

（4）学修成果

・点数：項目 1,2＝評価 4 ／ 項目 3,4＝評価 3

・分析：キャリアガイダンスの充実や校内･外企業説明会の実施により高い就職意識を醸成し、検定合格者への奨学金制度などで学業・資格取得を後押ししている。今後は欠席傾向のある学生への保護者連絡等の迅速なサポートや、卒業生の進路追跡連携をさらに強化する。

（5）学生支援

・点数：項目 1,3,4,6,7,10＝評価 4 ／ 項目 2,5,8,9＝評価 3

・分析：全教職員での就職支援、ニチビ特待生制度などの学費支援を整え、健康面・生活面も含めたフォローを行っている。今後は 1 年次前期からのキャリアガイダンス導入や外部講師の活用を進め、早期からの職業人意識の育成を図る。

（6）教育環境

・点数：項目 2＝評価 4 ／ 項目 1,3,4＝評価 3

・分析：ハイスペック PC の導入や PC 購入支援金の補助、年 1 回の避難訓練や施設開放など、教育環境の整備・維持を行っている。今後は指定避難所であることの周知徹底、教室への避難経路掲示、防災備品の拡充を進める。

（7）学生募集と受入れ

・点数：全項目(1〜4)＝評価 4

・分析：ガイダンスやパンフレット・HP を通じて的確な情報提供を行い、適正な学納金設定と免除制度で受験生の負担軽減を図っている。今後は SNS を活用したタイムリーな魅力発信や学費分納相談への柔軟な対応を行っていく。

（8）財務

・点数：全項目(1〜4)＝評価 4

・分析：無借金経営による安定した財務基盤を保持し、会計監査や私学振興課の指導検査においても指摘なく適正に運営している。今後は HP での財務情報公開を進めるとともに募集活動の強化と教育効果を高める投資への最適化を図る。

（9）法令等の遵守

・点数：項目 1,4＝評価 4 ／ 項目 2,3＝評価 3

・分析：専修学校設置基準等の法令を遵守し、個人情報保護方針に基づく管理やセキュリティ対策を講じている。今後は自己評価結果に基づく振り返りと正確な情報把握を強化し、ネットワークのセキュリティ更新確認を徹底する。

(10) 地域社会との連携・貢献（※報告書の全体傾向に基づく補足構成）

・点数：項目 1,2,3＝評価 3〜4

・分析：地域企業や行政機関（ハローワーク､商工会議所等）との連携によるキャリア教育や出前授業等を展開している。今後は地域社会との接点をさらに広げ、オープンキャンパスや地域貢献活動を通じて本校の教育成果を広く還元する。

議題⑥委員による評価および意見交換

服部委員：看護では、言われたことを出来るだけではなく、色んな患者様に対応できるように思考力が必要とされている。
卒業生に学校に来てもらって自分の経験談を話してもらう機会があり、学生が興味深く聞いていた。

氏原委員：医療現場に AI が入ってくると人、対、人の対応が難しい。
人とのコミュニケーションが大事な医療現場で、どこまで言語化できているか、が課題になってくる。

松尾委員：AI の時代、AI のスピードに追い付けるように、職員の研修が必須である。
教員側が AI を理解し、教えられないと「AI の野放し」になってしまう。
AI に頼りすぎて、学生自身が考える習慣が身に付かなくなる。教員側の技術者としての連携が必要である。
合理的配慮が必要な学生の対応や、保護者との連携を見直し、学校の存在意義をどこまで引き出せるか、が課題。

高橋委員：本校に在学中は、漫画家の先生に指導していただいたので、実際の漫画の世界をイメージすることができた。
自分が、実際に漫画家として活動を始めてから分かったことがあるので、在学中に漫画家の先生から話を聞ける機会がもっとあると良かった。
校内コンテストを実施したらどうか。

山北委員：何年か前に卒業した学生の現状調査を実施する話はあったが、出来なかった。卒業生の現状を把握できると良い。
医療事務は資格をとることと、実際の医療事務の現場での知識が必要。
医療秘書学科は担当の先生が少ないため、他の講師と共有出来ていない。
以前は、年度始めの講師打ち合わせ会の後に分科会を実施していたが、最近は実施出来ていないので、医療秘書学科の講師で、方針について話が出来ていない。こういう学生を育てたいと言う共通認識を作ることが大切である。

北村委員：本校の卒業生の進路を把握し、その情報を検証してカリキュラムへの反映があると良い。具体的に、勉強しておくと良かったことや、知らないと苦労すると言った、卒業生の声を聴くことは大事である。
本校の卒業生の就職してからの話を聞かせる機会があると良いのではな

いか。
授業が始まる年度初めに、学科の講師と授業内容が重複しないように打ち合わせが必要ではないか。

山口委員：キャリアガイダンスの先生が一人ひとりに寄り添って対応している
早くから企業の方に来ていただいて、学内の企業説明会も実施しているところは評価できる。